仕え合う生き方

今日はヨハネによる福音書13：1～15をお読みいただきました。ここにはどんなことが書かれてあったでしょうか。みんなで見ていきましょう。

イエス様はメシア（救い主）としてこの世にお生まれになりましたが、だからと言って「エッヘン、自分は偉いんだぞ」と威張り散らしたりはしませんでした。むしろその逆で、人の下に立って仕えられたのです。悲しむ人々、苦しむ人々、辛さを抱えた人々に徹底して寄り添われました。では、イエス様のお弟子さんたちはどうでしょう。そんなイエス様にきちんと従う生き方ができていたでしょうか。

マルコによる福音書10：35～45には、こんなお話が記されています。イエス様のお弟子さんのヤコブさんとヨハネさんがイエス様の所に来て、「ねえねえ、イエス様。お願いをかなえてほしいのですが」と言って来ました。聞けばイエス様が救い主として王様になったら、自分たちを右大臣、左大臣にしてほしいと言うんですね。イエス様は確かに救い主ですけれども、別に王様になるために生まれて来たのではない、十字架で自分が犠牲になってすべての人々を救うために生まれて来られたわけですが、それがまったく分かっていないお願いです。でも、分かっていないのは決して二人だけではありませんでした。

二人のお願いを聞いた他のお弟子さんたちが「抜け駆けしてずるいぞ！」と怒り始めたのです。そこでイエス様はお弟子さんたちをたしなめて言いました。「この世では支配者と見なされている人々が人々を支配し、偉い人たちが権力を振るっているけれども、あなたたちはそうであってはいけませんよ。あなたたちの中で偉くなりたい人はみんなに仕える者になりなさい。一番上になりたい人も、すべての人の僕になりなさい。私もそのためにこの世に生まれたのですから。」

さてそれから時間が経って、イエス様が十字架につけられる前日の夜になりました。

「もうすぐ自分は殺されてしまう。弟子たちにこれだけは言っておかないと。」イエス様はそう思われたのでしょう。夕食の時にお弟子さんたちが驚くような行動をなさいました。なんとお弟子さんたちの足を洗い始められたのです。当時人の足を洗うのは奴隷の仕事とされていました。「先生」、「主よ」と尊敬し、呼び慕っていたお弟子さんたちは戸惑います。「主よ、あなたがわたしの足を洗ってくださるのですか」、「わたしの足など、決して洗わないでください」。お弟子さんたちがこう言っても、イエス様は彼らの足を洗うことを止めませんでした。そして皆の足を洗い終えると、こう言われたのです。「あなたがたも私にならって互いに足を洗い合いなさいよ。」

それは文字通りにごしごし足を洗い合って綺麗にしなさいよということでは決してありません。イエス様がそうされたように互いに仕え合いなさいという意味です。イエス様はお互いに愛し合い、仕え合う道にお弟子さんたちを招かれたんですね。そして今もその道に私たち一人ひとりを招いておられます。

しかしながら、私たち、自分自身を振り返ってみてどうでしょうか。人の下に立って仕え合う生き方ができているでしょうか。このことを思う時、人の下になんか立ちたくない。そうではなく、人よりも上に立ちたい、偉くなりたい、そうして自分がやりたい放題して人をコントロールして生きたいと考えてばかりいる自分に気づかされないでしょうか。私たちはなぜ勉強をするのか。その理由が偉くなって人よりも上に立って良い思いをしたい、やりたい放題したいということだったら、それはむなしいです。むしろこの世界に仕え、人の幸せに貢献するためであってほしいと願います。

そもそもなぜ私たちは、人の下に立って仕えるのが嫌なのでしょう。それはもしかすると、そんなことをすれば自分が損をするように感じられるからかもしれません。人を押しのけてコントロールして、自分の好き放題わがままに生きている方が気持ちが良い、得だ。人のために自分を犠牲にするなんて損をするだけだ。そんな思いがあるのではないでしょうか。

でも実は仕え合うことって、人生が窮屈になるのではなくて豊かになるのです。この教会で11年間、みんなで仕え合う時間を過ごす中で、私はそう気づかされました。自分ひとり、人を押しのけてやりたい放題していては決して得ることのできなかった幸せがそこにはあります。お互いに愛し合う幸せ、愛する人が喜んでくれる幸せ、人が幸せになることで自分も幸せになる感覚と言いますか、自分の幸せで頭がいっぱいでは気づけない幸せがそこにあるのです。

教会に連なる子どもたちが将来人の上に立ちたいと願うばかりではなくて、こうした仕え合う喜び、幸せに目覚めていってくれることを願います。またこうした喜び、幸せを、世の中の人々に伝えて広げていきましょう。イエス様のもと、みんなで愛し合い、仕え合って、この世界を冷たい社会から温かい社会に変えていきたいと願います。

祈りましょう。　――以下、祈祷――